

中島研究室公開セミナーの記録

今まで当セミナーでは、次のようなテーマ・講演者でセミナーが開催されました。

(1995年)

第1回 12月13日

「情報倫理は日本に根づくか」 土屋俊（千葉大学文学部教授）

(1996年)

第2回 2月21日

「国際標準とデ・ファクト標準」 名和小太郎（新潟大学法学部教授）

第3回 4月11日

「思想と技術」 薬師寺泰蔵（慶應大学法学部教授）

第4回 5月16日

「計量計測とSTS」 高田誠二（久米美術館参事、北海道大学名誉教授）

第5回 6月19日

「新製品開発の事例――3.5インチフロッピーディスクシステム」
中山正之（ソニー開発研究所、3.5インチシステム開発当事者）

第6回 7月10日

「誰が人間の『生物学化』を嫌うのか？――脳と遺伝子の対立仮説」
佐倉統（横浜国立大学経営学部助教授）

第7回 8月24日（21世紀文化学術財団プロジェクト「科学技術と社会」と共催）

「戦後米国における軍と科学技術」 橋本毅彦（東京大学教養学部助教授）

「自然保護を問いなおす」 鬼頭秀一（青森公立大学助教授）

第8回 9月25日（久米美術館・目黒科学技術史研究会と共催）

「職人の熟練について」 草光俊雄（東京大学教養学部教授）

第9回 10月30日

「アヤシイ科学？新しい科学？科学雑誌の現代的役割は何か？」
木元俊宏（朝日新聞社出版局）

第10回 11月27日

「Biotechnology and European Public Debate」
Simon Joss (Science Museum, London)

(1997年)

第11回 1月28日（目黒科学技術史研究会と共催）

「中島秀人著『ロバート・フックーニュートンに消された男』合評会」

第12回 2月28日

「塚原修一・小林信一著『日本の研究者養成』合評会」

第13回 4月17日

「知的財産権の国際的調和に関する米国の交渉戦略」
中川淳司（東京大学社会科学研究所助教授）

第14回 5月21日

「地球環境問題の政治学」 米本昌平（三菱化成生命科学研究所）

第15回 6月26日

筑波常治（早稲田大学教授）

「緑とグリーンとみどり色――そこに映った日本文化」

第16回 7月9日

「The Science of Management and Management of Science: How different is the Japanese Style of Organizing R&D and Innovation」

Simon Collinson(Edinburgh University)

第17回 8月29日

「Neuro-fuzzy Research & Applications in Finland

Philosophical Ethics of Science and Technology」

Prof. Niskansen & Dr. Airaksinen (University of Helsinki)

第18回 10月1日

「国際市場の変質と特許制度の変化」 富田徹男（東洋大学教授）

第19回 11月19日

「科学ジャーナリズムと社会」 小出五郎（NHK解説委員）

(1998年)

第20回 1月14日

「社会類型と科学技術」 市川惇信（人事院・人事官）

第21回 3月26日（東工大・火曜日ゼミと共催）

「ロモノソフの化学実験室」

Dr. Igor Sergeevich Dmitriev（ホテル国立大学メテレーフ博物館長）

「Social Insecurity as a Source of Scientific Creativity:

The Hungarian Phenomenon in the History of Science」

Dr. Gabor Pallo (Hungarian Academy of Science)

第22回 6月4日

「デジタル・アーカイブと公共圏」 合庭惇（静岡大学情報学部）

第23回 7月16日

「NETWORK DYNAMICS IN ENVIRONMENTAL POLICY AND TECHNOLOGICAL DEVELOPMENT: THE CONSTRUCTION INDUSTRY IN JAPAN AND THE UK」

Dr. Mark BODEN (Manchester Univ. & NISTEP)

第24回 10月14日

「デンマークにおけるコンセンサス会議」 Mr. Lars Kluwer, Denmark

「テクノデモクラシーの提唱」 柳田博明（東大名誉教授、簡明技術推進機構）

第25回 11月30日

「Engineering, Imperialism and Political Economy: Water in Britain since 1850」

Dr. Richard Coopey (University of Wales / London School of Economics)

第26回 12月16日

「土の不思議と新素材」 石田秀輝（（株）INAX 基礎研究所長）

(1999年)

第27回 2月9日

「地理学と軍隊の近代化」

サビーネ・フリューシュトユック（ウィーン大学、東京大学）

第28回 3月10日

「Modelling Enterprises as Means of Co-ordinated Human Activity」

Dr. Peter Bernus (Griffith University, Queensland, Australia)

第29回 4月20日

「電子楽器の身体性――アフォーダンス以降のインタフェース・デザイン論」

久保田晃弘（多摩美術大学）

第30回 6月29日

「シチュエーション・コンピューティング――人間から発想するコンピューティングの可能性」 前川秀正（（株）富士通総合研究所）

第31回 8月2日

「The Hidden History and Legacy of Kuhn's Structure of Scientific Revolution」

Prof. Steve FULLER (University of Warwick)

第32回 10月6日

「数学者の目――数学から科学・教育・日本を見ると」

浪川幸彦（名古屋大学大学院・多元数理科学研究科教授）

第33回 11月18日

「排出権取引とその国際的適用：地球温暖化へのアプローチ」

松尾直樹（地球環境戦略研究機関・上席研究員）

第34回 12月9日

「コンセンサス会議の形成と意義」

木場隆夫（科学技術庁・科学技術政策研究所）

（2000年）

第35回 1月13日

「もの作りの原点：ソニーの技術開発におけるマネジメント」

加藤善朗（元ソニー取締役）

第36回 3月30日

「学術情報の電子化」

名和小太郎（関西大学・総合情報学部）

第37回 4月28日

「政府のソフトウェア開発はなぜ駄目か：第五世代を事例として」

大谷卓史（東大先端研）

第38回 6月7日

「A Better Way to Think about Business」

Robert C. Solomon (University of Texas, Austin)

第39回 7月7日

「研究開発支援体制とその論理」

綾部広則（東大大学院・総合文化研究科・助手）

第40回 8月31日

「日本のTLOは機能するのか」

土淵庄太郎（東京工業大学）

「STS in China」

殷登祥（中国社会科学院哲学研究所STS研究センター主任）

第41回 12月1日 目黒科学技術史研究会と共催

「アメリカのバイオエシックスについて」

綾野博之（東京都立短期大学・非常勤講師）

(2001年)

第42回 1月26日

「地域コミュニティと大学」

生田茂（東京都立大学工学系研究科・教授）

第43回 4月17日

「20世紀における工業化および情報化社会の転換」

Feng Zhao Kui（中国社会科学院日本研究所・教授）

第44回 6月8日

「旧ソ連の科学技術研究人材の動向：ソ連崩壊から10年」

小林俊哉（未来工学研究所・主任研究官）

第45回 7月27日

「モバイル（端末）の現状と未来」

入鹿山剛堂（SOHO／モバイル研究家）

第46回 9月27日

「Traditional & Indigenous Knowledge: Their relevance to a sustainable global society」

Dr. Edson Kenji Kondo（国連大学高等研究所・上席研究員）

第47回 12月13日

「『月とゲッター』から進化経済学まで」

Prof. Richard Nelson（Columbia University）

(2002年)

第48回 1月15日

「How did Chinese Medicine Become Experimental?:The Political Epistemology in Jingyan(Experience)」

雷祥麟教授（台湾精華大学）

コメンテーター：宋相庸教授（韓国翰林大学、元・韓国科学史学会会長）

第49回 3月2日（土）13時30分～15時30分

「The Rise of Actor Network Theory, or How to Welcome Nonhuman in our Human Societies」

Prof. Michel Callon (CSI, Ecole de Mine, Paris)

共催：文部科学省科学技術政策研究所

第50回 5月10日（金）17時30分～20時00分

「Guests for Science: Technology, Development and Globalization」

Prof. Wesley Shrum（Louisiana State University）

第51回 5月31日（金）17時30分～19時00分

「欧州ならびにイタリアにおける生命科学の認知とそれに対する態度」

Dr. Massimiano Bucchi(Lecturer of Sociology of Science, University of Trento)

第52回 6月4日（火）16時30分～18時30分

「The "Why-not" Question of Chinese Science: Scientific Revolution and Traditional Chinese Science」

金永植教授（ソウル大学科学史学科長、東アジア科学史学会長）

第53回 7月4日（木）17時30分～19時30分

「データベース型社会の到来と工学的想像力」

東浩紀（学術振興会特別研究員）

第54回 2002年11月1日（金）18時00分～19時30分

「知識は誰のものか～学術情報流通の電子化から考える」

土屋俊（千葉大学文学部教授）

第55回 2002年11月18日（月）13時00分～15時00分

"From J.D. Bernal to Public Understanding of Science: Debating the Social Function of Science in Britain"

John Ziman（ブリストル大学名誉教授）

※社会技術研究システムと共催。

第56回 2002年12月10日（火）16時30分～

"How soon we forget: Why it's difficult to do a critical history of the recent past-- the examples of Heidegger and Kuhn"

Steve Fuller（英国ウォーリック大学社会学部教授）

(2003年)

第57回 2003年3月19日（水）18時00分～20時00分

"Policy-making by Misconception--Subjective Learning between American and Japanese Innovation Systems"

Kenneth Pechter（東京大学大学院情報学環・学際情報学府・助教授）

第58回 2003年5月23日（金）18時00分～20時00分

「工業社会のための教育：シャルル・デュパン（1784-1873）と産業科学の公開講義」

中村 征樹（東京大学先端科学技術研究センター・科学技術論研究室・助手）

第59回 2003年7月18日（金）18時00分～20時00分

「古代ギリシアにおける知識の探求」

納富信留（慶応義塾大学文学部・助教授）

第60回 2003年12月16日（火）17時00分～18時50分

「Playing with Theories: Computer Simulations as Second Order Models in Science」

Guenther Kueppers（IWT, Bielefeld University）

(2005年)

第61回 2005年1月12日（火）17時30分～19時30分

「日中両国のイノベーションの比較研究」

張明国（北京化工大学・教授）

第62回 2005年2月23日（水）17時30分～19時30分

'Macro-Analysis about the Mobility of Researchers in China since 1999'

尚 智叢（中国科学院研究生院・文法学院・助教授）

第63回 2005年3月31日（木）17時30分～19時30分

"Niels Bohr's Complementarity and Cultural Pluralism"

Kim Yooshin（釜山大学教授、韓国科学哲学会会長）

(2008年)

第64回 2008年4月15日（木）15時30分～

"Creative Knowledge Environments"

Prof. Sven Hemlin(Gothenburg Research Institute(GRI), School of Business, Economics and Law, Gothenburg University)

第65回2008年5月30日(金) 17時～

"Precaution for Risk or Fears?:Precautionary Principle and Public Health Risk Management"

Prof. Niu Huei-Chih (牛惠之先生、Institute of Law for Science and Technology, College of Technology Management National Tsing Hua University:台湾清華大学技術経営学科科技法律研究所)

第66回2008年9月26日(金) 17時30分～19時30分

合評会「大谷卓史『アウト・オブ・コントロール―ネットにおける情報共有・セキュリティー・匿名性』(岩波書店、2008年)を読む」(評者、古谷紳太郎、中島秀人(東京工業大学))